

# 愛称通りを歩く 24

## 神明通り

(東砂六・七丁目)



舟入川跡の四十町通り(八月号)から清洲橋通りまで北へ続く通りが神明通りです。

舟入川は昭和十三年から埋立がはじまり十五年に砂利道が完成。かつてこの通りも四十町通りといわれていました。

神明通りに面して天祖神社が祀られています。深川神明宮(森下)の歩みに『万治年間(一六五八)』の深川氏により八郎右衛門新田が開かれ、御分社・天祖神社が創建される』とあります。この天祖神社



は別名神明様といわれていたので神明通りとなりました。また四十丁の由来は八郎右衛門新田の面積が四十丁(約40ヘクタール)あったためといわれています。

天祖神社の例大祭は毎年九月二十一日。今年から四十丁の氏子奉賛会も発足し、二十日の日曜日には境内に大中2基、子供2基の神輿が披露目されました。

神輿は昭和三十年頃に浅草の宮本で作られた三尺以上はある神輿で、屋根は亀甲紋様の金箔、全体に手の込んだ彫りが施された立派



なものです。

神明通りは通りを堺に東砂六丁目と七丁目に分かれています。「飲食店が中心で商店は少ないですね。今は三十四軒かな、純朴な人ばかりで住み良い町ですよ」と葛西橋神明通り会の天海会長。

舟入川跡の四十町通りから神明通りまで歩いて約15分、古い歴史とちよつとおしゃれな店が点在しています。秋の荒川堤の散歩とともにおすすめの通りです。

**深川橋通り**

**MAP**

四十町通りが長く、神明通りは、かつて舟入川跡

古い歴史のありそうな地蔵堂

会長さん宅

天祖神社(深川神明宮の御分社)

20日の例大祭には、境内に神輿が飾られます

神明通り

舟入川公園 町の由来を記した看板あり

ボウリング場

露天風呂のある風呂屋さん

神明通り

四十町通り